

夏季吟道講座に参加して

佐久間爽岳

去る7月27日、28日の両日にわたり、東京九段会館に於て夏季吟道講座が開かれました。全国から千二百名の方が参集され、会場は熱気と共に満員。碩心会から根岸岳萃・加藤岳相先生他、後記12名が参加しました。

会場は今年から指定席になったため、三階の高い席でした。始めのうちは立ち上がって礼をする度に、頭から下へ滑り落ちそうな感じがしました。

(第一日目)

第一講時は富山県の宮崎岳饒先生で、漢詩二題と和歌でしたが、吟符の「張り上げ、揺り落し」の吟じ方を耳新しく感じました。また発生法について、声を出し切ったと思うところで、お腹を背へつけるようにやれば更に一声が出るし、二句三息ができるようになる」と説かれました。吟じやすい姿勢とは、直立不動より肩の力を抜いて、やや前傾であるとポーズを示されました。

第二講時は国士館大学教授の安東英男先生

による「太平記の世界」でした。テレビで放映中でもあり、南北朝に分れる哀史の背景について、承久の変からその原因をなしたと、興味津々のお話でした。そして南朝に殉じて滅びていった人々の剛毅不屈、正義のもとに不退転の決意を貫き通した雄々しさ……それが藤田東湖や頼山陽によって讃えられたこと。吉田松陰は「七生説」を作って門弟を鼓舞したとのこと。全体で二時間以上にわたる講義でした。その中で頼山陽の「楠河州の墳に謁して作有り」その他を松井正風氏外三名によって吟じられました。

次は長野県副部長の菅野岳蓉先生でした。李白の「江上吟」で流麗な詩と女性の豊かな美声。そしてユーモアを交えての指導を終えてから、一同に向い「明日7月28日は、長野県本部の60周年記念に当るので、明日はそこからへ行かせて下さい」と諒解を求められた時会場から大拍手が贈られました。さすが岳風先生のお膝元だけあって60周年……我が碩心会も来年は55周年……がんばらなくっちゃ。

(第二日目)

第二日目は、竹末岳陽理事長の五倫の教えにもとづいた講話が一時。

次は札幌の手島岳夕先生。美人で華奢な身体にかかわらず声量のあるのに驚きましたが高校二年より吟を始めたとのことでした。

次も札幌の片島岳穂先生で、吟符の統一名称について、平成3年6月号の「吟道」第15頁から3頁にわたって掲載されたものが、これからの重要な指針になるでしようと言われた。例えばNo.10は「中揺り」No.20は「張り上げゆり下げ落し」と長い名称がついたが、全体の符は、この3頁に要約されているのと。

真夏日の二日間、重厚な建物の九段会館で朝から夕方五時半まで、充実した講義を受け「よく聞いた。吟じた。くたびれた」というのが実感。でも熱心なご研究のもとに指導して下さった講師の方々の気迫と熱意に引きつけられていました。その中で大いに納得したり、同感であったり、または疑問が解けたり、或いは新しい疑義が生じたりしましたがこれから吟じ、学んでゆくことに役立てたいものと思います。参加者は次の方々です。

中村幸岳 千葉劔岳 中村愛岳 鈴木孝岳
山口夕岳 村田滯岳 上村象岳 佐久間爽岳
木村松岳 寺脇宇岳 立沢御岳 宇都宮徳風

北欧周遊の旅

宇都宮徳風

去る6月20日から7月1日の12日間、デンマーク・スエーデン・フィンランド・ノルウェイの四ヶ国を旅行して参りました。

この四ヶ国を旅行して共通して言える事は、水が大変おいしく、安心して飲めるのは嬉しく、料理もうまく、又夫々山紫水明の地で、その自然美は素晴しく、幸にして天候にも恵まれて、旅を満喫して参りました。

各国で夫々素晴らしい見聞をして参りましたが、夫々の国で最も印象が強かったことを寸描します。

「丁抹」コペンハーゲンでは王家の住居内半分を具に拝観して、その美術的調度品の見事さには目を眩るものがありました。

国民と 王家の間 垣のない

此の国柄は うらやましけり
 銭の出ん 印の菓 飲まなけりや

私の頭髮も コペンハーゲン
 「瑞典」ストックホルムは、北のベニスと言われる水の都で、特に夏の離宮ドロットニ

ングホルム宮殿は、ベルサイユ宮殿を真似て造った宮殿で、レニングラードの夏の宮殿（ピョートル大帝建造）にも似て、その見事さに驚き、又、ストックホルムからヘルシンキ迄の五万八千万屯の豪華船での夜間13時間のクルーズは忘れられない思い出でした。

ルイ朝の ベルサイユ宮に よく似たる
 この宮殿は ピョートル宮にも

午後十時 水平線に 入日見る
 豪華船上 キアビン窓から

「芬蘭土」ではヘルシンキを経て、ラプランドの北極圏のサンタクローズ村に行き、沈まぬ太陽の神秘を見る事が出来たのは大変幸せでした。

お互に 厄介な国 隣にし
 楽しみは減る 辛気臭くて

太陽が 沈まぬ中に 又昇る
 正しく白夜の 神秘さを見る

ラブランド サンタクローズ出でまして
 握手するのも 観光のため

最後に「諾威」では、ベルゲンのグリークの家と言っても丘巻はU字谷の山高千米、長さ二百軒のソグネフィヨルドの景観であり、今回の旅の最も期待した目標でもあった。

フィヨルドは 予想を超えた景観に
 感動しすぎ 戯歌一つ出す
 しかし、この感動を七言絶句にしました。

船上 観 北欧峡湾 雄勝

○●●●○○○●◎
 欧北、峽湾雄大、連
 ●○○●●●○○◎
 断崖絶壁屹深淵
 ●○○●●●○○●
 忽看瀑布落山頂
 ○●●●○○○◎
 疑是白龍昇九天
 オスロではバイキング、ハンザ同盟以来の海洋魂の展示物が多く、ナムゼン、アムンゼン、コンチキ号を改めて認識した次第です。
 若者よ バイキング船に 乗る上は
 押す櫓に引き櫓 せめて覚えよ

俳句 大船A 田中絵泉

金魚さげて揃ひの甚平父子かな
 二三枚ハンカチ持ちて万歩計
 片蔭や四方山話長引きて
 メモ忘れ来し日盛りの思案かな

練吟
メモ
権威

○むづかしい表題ですが、身近のことです
で一読してください。吟詠練習の場でもこ
なことに関係があるのかと疑問に思われる
かも知れませんが、思わぬところに存在して
るようです。広辞苑では権威を、①他人を強
制し服従させる威力。人から承認と服従の義
務等を要求する威力。②その道で第一人者と
認められる人。大家。と解説しています。③
もありませんが、つこうで後回しにします。

○吟詠の世界に入っていると、なにかにつ
け「吟道」といういかめしい言葉が、目に耳
に入ってきます。でも、一般に私達が入会す
る動機は、趣味として詩吟を身につけたい、
と言ったのが普通であろうかと思えます。そし
て現実には、人様のお話に自分もその気にな
って、好みの先生の指導を受けることになり
ます。この際の先生は正師範とか師範とかの
資格には全く関係なく、自分に都合のいい教
室に入るようになるのが通例でしょう。事実
岳風会は正師範も新入会員も一律に「一般会
員」と呼称されて、なんら身分上の区別はな

く、前述「権威」の①の威力はまるでありま
せん。木村岳風祖宗範は常に「詩吟を職業と
するのは私一人でたくさん。皆さんとともに
勉強しましょう」と言われていたことはあま
りにも有名で皆様先刻ご承知のとおりです。
○岳風会の平均年齢が七十歳近いとなると、
毎年行われる九段・十段の昇段審査の受審者
の重い負担が頭をかすめます。受けるかどう
かは無論自由ですが、だからと言って十段の
審査課題の「啾啾吟」はあまりにもひどい。
七言十八句の長律で、詩句は大苦勞して暗記
したとしても、詩意は日本人には理解しにく
いし、まったく覚え甲斐のない詩だと思いま
す。上層部は「高段位の権威にかかわるから
」と答えていますですが果してそうであろうか。
○そこで前述の「権威」の定義にもう一つ③
があることに注意したい。その道の大家なら
いざ知らず、あやまった権威主義に陥ると、
「盲目的服従を強い、弱いものいじめの態度
や行動としてあらわれる」とある。九・十段
の審査課題の厳しさに比較し、権威ありと自
負する師範以上の審査課題や資格付与の甘さ
を指摘した「吟道」2/1月号「新春座談会」
の記事の事実を如何と為すと申し上げたい。

岩崎恵岳
昼花火子に原色の帯結ぶ
ひぐらしや子は夕鳩の輪の中に

白井寿岳
卵塔の数基よりそひ星月夜
通されし縁に間近や黄水蓮

南都政岳
須弥壇に金色の揺れ風涼し
大花火散華して即闇もどす

(氏名訂正)
7月入会者 622 天野敏子とあるは俊子が正当

(住所変更)
50 佐竹扇岳(新) 逗子市逗子五―一三一―一六
第一桜山荘二〇三号

電〇四六八一七三―一九五九七
61 舟渡舟岳(新) 逗子市桜山三一四―四七
電〇四六八一七二―一三八〇

(入会)
623 高塚俊子 逗子市久木四―一七―四三
(若葉) 電〇四六八一七二―一七三二

624 後藤紀子 横浜市栄区小菅ケ谷一九七〇―一
(大船A) 電〇四五―八九二―一五七二

(退会)
183 河野光子(上原)